

「経済学」と「経済」のギャップ

Q 「研究分野もしくは、担当科目の魅力を教えてください」

研究分野は、国際金融論、マクロ経済政策あたりですが、分析ツールとして計量経済学を使っていますので、担当科目は計量経済学とマクロ経済統計です。

計量経済学は、経済理論を実際に観察されたデータを使用して分析するためのツールを学ぶ学問ですが、ツールをいったん身につければ、その応用範囲がとても広いのが一番の魅力といえます。また計量経済学は一般にパソコンを使用して分析を行うので、パソコンやプログラミングが好きな人にもオススメです。

マクロ経済統計は、TVや新聞で報道される経済ニュースの根拠となる統計データを学ぶ学問です。統計データの性質や作成方法を学ぶと、報道されるエコノミストの主張が、どのような根拠に基づいているのか、あるいはその主張が信頼できるものなのかどうかを、自分なりに経済学的な視点で解釈したり評価したりできるようになるかもしれません。

経済理論を学んで、「あれ？これって抽象化されすぎて、実際の経済とかけ離れているのでは？」「経済理論通りに、実際の経済って本当に動いているの？」と疑問に思う初学者の人も多いかもしれません。計量経済学やマクロ経済統計を学ぶ意義は、そのような「経済学」と「経済」のギャップを埋めるためにあると私は考えています。

Q 「その分野もしくは、科目を志したきっかけを教えてください」

大学時代のゼミ研究が国際経済学だったのが一番のきっかけです。ゼミ旅行でマレーシアに行った時、ちょうどアジア通貨危機の真最中だ

だったので興味をもってしまい、大学院で主に通貨危機の理論面と実証面について研究をすることになりました。それ以降、為替レート制度分析や為替レートの決定理論、マクロ経済政策へと流れている最中です。経済学は学べば学ぶほど面白くなる学問です。皆さんも経済学を学んでみましょう。

Q 「推薦する図書を教えてください」

最近読んでいるのは、「最強の経済学者ミルトン・フリードマン(日経BP社、2008年)」です。言わずと知れた現代経済学の神様の伝記です。天才はこうやって生まれるんだなあ、改めて自分との相違を感じました。しかしながら若い学生さんにはオススメです。この伝記を読んで、明日のノーベル経済学賞を目指してはいかがでしょう。

つけたしなのですが、「テロの経済学(東洋新報社、2008年)」も同時に推薦します。経済学と私の好きなアメリカンドラマの融合のような本であり、経済学の応用範囲の広さを物語っています。

■計量経済学入門 ■計量経済学
■マクロ経済統計 I

佐藤 綾野
(さとう あやの)



早稲田大学院経済学研究科博士課程満期退学。新潟産業大学講師を経て現在に至る。北海道別海町出身なので置いは苦手。趣味はアメリカンドラマ鑑賞。小学校から高校までバレーボール部に所属したがそれほど上手くない。おとめ座B型。三姉妹の長女。